

令和元年5月31日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K12089

研究課題名(和文) 家族基盤に基づくコペアレンティングを促す妊娠期介入プログラムの開発と検証

研究課題名(英文) Development and validation of a pregnancy intervention program promoting family-based coparenting

研究代表者

中村 康香 (NAKAMURA, Yasuka)

東北大学・医学系研究科・准教授

研究者番号：10332941

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、「coparenting(コペアレンティング)」という、父親と母親が子育てについての責任を分担し、お互いに親役割を調整しサポートしていく、ともに親になることへの支援を行うことで育児で直面する問題解決の可能性を探るため、エビデンスに基づきアメリカで開発されたCoparentingを促すFamily Foundation Programをわが国の文化や社会状況にあわせた日本人への適用可能性を検証・評価した。介入群15組、対照群8組の夫婦を分析対象とし、産後1か月、3か月の効果を調査した。結果、介入の効果のあった夫婦においては、コペアレンティング関係性に良い影響を及ぼしていた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

父親と母親が子育てについての責任を分担し、お互いに親役割を調整したりサポートする、coparentingの関係を促進するプログラムが、パッケージとして確立すること。そしてそのプログラムが、産後の育児をする夫婦にとって良い効果を及ぼすことが検証されることにより、国内において幅広く利用することが可能となる。また、男性の育児参加割合の増加、女性の就労継続による我が国の労働力確保、育てにくいと感じる親の割合の減少、さらには児童虐待の減少など、家族全体のより良い健康へ大きく貢献ができるという幅広い意義がある。

研究成果の概要(英文)：In this research, "coparenting" is that fathers and mothers share responsibility for child-raising, coordinate and support parent roles with each other, and supports them to become parents together. In order to explore the possibility of solving problems facing childcare, the Family Foundation Program, which promotes coparenting developed in the United States based on evidence, was examined and evaluated for its applicability to Japanese people in accordance with Japanese cultural and social situations. The analysis target is 15 couples in the intervention group and 8 couples in the control group, and the effects of 1 month and 3 months after birth are investigated. As a result, the couple who had the effect of the intervention had a good influence on the coparenting relationship.

研究分野：ウィメンズヘルス看護学分野

キーワード：看護学 妊娠期 親になる 夫婦 コペアレンティング

1. 研究開始当初の背景

わが国の2014年の20~39歳の有配偶者女性の労働力率は約6割(厚生労働省雇用均等・児童家庭局2014)となり、職業を有しながら妊娠・出産、そして育児を行っていく女性は今後増加して行くことが推測できる。しかし、第1子出産前後で約6割の女性が退職している状況や、たとえ共働きであっても妻の家事・育児時間は夫の0.39時間と比較し4.35時間と女性が家事・育児を大きく負担しているのが現状である。このような女性の仕事と育児の両立の困難さ、育児の心理的・身体的負担が問題となってきており、国は育児に積極的に参加する男性を増やそうと、2010年よりイクメンプロジェクトを始動した。父親が育児参加することによって、母親の育児不安が軽減し、子どもへの関わりが良好になるなど(柏木ら,1994;加藤ら2002など)母親に対する多くの利点だけでなく、父親側も自身の成長へとつながり(大野,2008;Conte,1999)さらには子どもの学習能力や精神的健康、発達成長に影響があることも明らかにしている(Rosenberg and Wilcox 2006, Allen and Daly 2007)。

一方、育児そのものについては、特に第1子を迎える夫婦にとっては、初めての育児には多くの困難や問題に直面する。多くの夫婦が最初の子どもの出産に伴い、家事分担の変化、家族外の役割、夫婦関係性などの変化を伴い、育児に関するストレスや夫婦間のもめ事、抑うつを多く経験することが研究で明らかとなっている(Lawrence et al. 2008; Perren et al. 2005)ことから言える。さらに、2015年4月より開始された、「健やか親子21(第2次)」の重点課題の一つとしても、育てにくさを感じる親に寄り添う支援が求められており、育児の不安や困難さ、子どもとの関係性の構築などについての支援の必要性が謳われている。

以上のことから、育児そのものに対する支援と、育児をしていくうえで父親と母親がお互いをサポートしていけるような関係に焦点を当てた夫婦関係に対する支援が必要である。これら2つの領域を統合した概念枠組みを持つのが「Coparenting(コペアレンティング)」の関係性である(Feinberg 2002)。

2. 研究の目的

Coparentingを促進するプログラムに、Family Foundation Program(Feinberg and Kan 2008)(以下FFプログラム)がある。このプログラムは、coparentingを促すことにより、親への適応、夫婦関係、育児と子どものアウトカムを目指すものである。FFプログラムは、特別なリスクを持たない、一般の夫婦に対してこれらのエビデンスに基づいて行われるプログラムであり、一般的な日本人夫婦への応用は可能かもしれない。しかしCoparenting関係性は、信念や価値、文化、社会、人種、宗教などの多様な側面から形作られる(Feinberg 2003)ため、白人の中流階級を対象に作成されたFFプログラムをそのまま日本人夫婦に適用するには限界がある。したがって、このFFプログラムが一般的な日本人夫婦に対して応用可能かどうか検証するとともに、わが国の文化や社会状況に合った、coparentingを促す支援プログラムを開発する必要がある。FFプログラムは妊娠期から産褥早期にかけて、6か月間に及び、8セッションのプログラムであるが、まずはじめに、前半4セッションに当たる妊娠期のcoparentingを促す支援プログラムについて開発し、検証していくことを本研究の目的とする。その後、産褥早期に向けてのcoparentingを促す支援プログラム開発に向けての示唆を得て、FFプログラムの後半セッション(4セッション)を合わせ、さらなるプログラムの構築へとつなげる。

3. 研究の方法

(1) 研究対象者

- 第1子妊娠中の夫婦(初産婦の夫婦、男女)
- 夫婦双方が日本人
- 日本語の読み書きができる
- リクルート時、夫婦双方に精神疾患がない
- リクルート時に胎児に予後不良の疾患がない

(2) 研究デザイン

介入非介入群比較対照研究

(3) 介入内容

Family Foundation Program®は家族に焦点を当てた予防プログラムで、妊娠期から行われる夫婦参加型の教育プログラムである。このプログラムの目的は、夫婦が子育てについての責任を分担し、お互いに親役割を調整し、サポートし合うことを支援することにある。内容は表1参照、構成は1回目(セッション1-2)、2回目(セッション3-4)とし、各180分とした。介入群の対象者は、対照群の対象者同様、希望によって市町村および通院施設内の母親学級や父親学級、両親学級を受講してもよい。

表1 Family Foundation Program®の概要

	セッション1	セッション2	セッション3	セッション4
テーマ	家族を築く	感情ともめ事	チームワーク	対応の仕方

目的	チームとして共に育児をすること (coparenting) の大切さを理解する	赤ちゃんの感情への親のもめ事の影響、もめ事への対処を学ぶ	実際の出産後の仕事の負担について考えながら、効果的な話し合いの方法について学ぶ	自分の意見を言う時のコミュニケーションスキルを総復習する
講義内容	・本教育プログラムの全体的な効果や目標 ・チーム育児による子どもへの効果	・赤ちゃんの感情 ・自分たちの感情や、感情による心身の反応 ・赤ちゃんの感情への親のもめ事の影響	・育児チームを阻害する要因 (態度等) ・思考の実態 ・ネガティブな考え方を変える方法	・子どもの成長と行動、子どもに対する親の立ち位置 ・もめ事に対する良好なコミュニケーションのとり方
ペア/グループワーク内容	・育児方針の話し合い: 子どもがどのように育て欲しいか、子どもの個性や特徴が書かれたカードを用いて夫婦で話し合う ・話し手/聞き手練習: 各々が話し手/聞き手に徹し、積極的に意見を言う/聞くことを実際に行う	・もめ事への対処: もめ事の1例をロールプレイしてもらい、この時どうすればもめ事を起こさずに済んだのか、もめ事を解消/緩和できるのかを話し合う	・出産後の仕事の負担: 「今どうか」と「子どもが生まれたらどうするか」をワークシートに従って、誰が・どれを・どのくらいするか考え記入する。その後、話し手/聞き手になって、夫婦で話し合う	・コミュニケーションスキル: もめ事の1例をロールプレイしてもらい、1回目は強い口調で、2回目は柔らかい口調で「もっと赤ちゃんの世話をすべき」という内容を切り出してもらう。これらへの印象の違いや応答の変化について話し合う

(4) 調査項目

プログラムの評価は、coparenting 概念モデルに包含される各概念を評価することにより行う (図1)

日本語版コペアレンティング関係尺度 Coparenting Relationship Scale Japanese ver.; CRS-J (Feinberg et al., 2012)

夫婦間の愛情尺度 Marital Love Scale; MLS (菅原・詫摩, 1997)

夫婦間調整テスト Marital Adjustment Test; MAT (Locke et al., 1959; 三隅ら, 1999)

妊娠期快適性尺度短縮版 Prenatal Comfort Scale; PCS (武石ら, 2011)

日本語版 Center for Epidemiologic Studies Depression Scale; CES-D (Radloff, 1977, 島ら, 1985)

日本版エジンバラ産後うつ病自己評価票; EPDS (岡野ら, 1996)

赤ちゃんへの気持ち質問票 Mother-to-Infant Bonding Scale; MIBS (Taylor et al., 2005; Yoshida et al., 2012)

乳児の行動チェックリスト Infant Behavior Questionnaire-Revised; IBQ-R (Gartstein et al., 2003; 中川ら, 2009)

人口統計学的データ (属性、分娩情報など) 基本的に夫婦両方とも回答してもらう

介入前: 年齢、最終学歴、職業、就労形態、収入、家族形態 (女性のみ: 妊娠・出産歴)

産後: 分娩方法、児の性別、異常の有無、里帰り出産の有無、栄養方法、産後の育児支援者、栄養方法、育児内容、育児時間

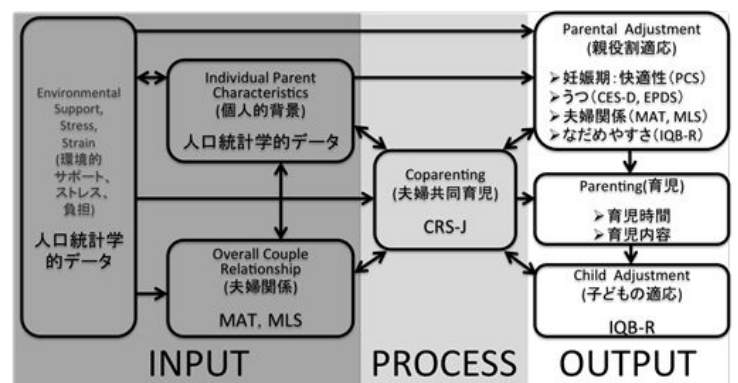


図1 coparenting 概念モデルに基づく評価指標

4. 研究成果

(1) 介入プログラムの開発 (日本語版妊娠期コペアレンティング促進プログラムの開発)

本プログラムの開発は WHO の Process of translation and adaptation of instruments に準じて下記の手順で行った。プログラムの使用許可を得たのち、日本語や翻訳、内容を専門家て検討し、詳細な内容を含んだスクリプトを作成。その後プレテストを行い修正した。

学習媒体・手段については、フリーディスカッションではなく、考えをまとめる時間をとり付箋に記述してもらったのち、発表するという形式を採用した。

また動画教材については、日本語字幕を付けるとともに、動画の振り返りの時間を設け、さらに数本厳選をした。

ロールプレイについては日本人夫婦にとっては困難なことが予測されたため、あらかじめセリフを書いたシナリオを用意したり、それぞれで演じてもらうなど、工夫した。オリジナルのプログラムにおける講義は、理論的な説明がほとんどを占める。

本プログラムでは、理論的説明だけでなく、日本人では実際にどのような状態を示すのか、どのような行動を示すのかなどの例示を含め、イラスト付きのスライドを増やして説明し、理解を深めやすいよう工夫した。教材内容については、例示について日本文化にあった例示や言い回しに変更した。

構成については、オリジナルでは 90 分 × 4 回の構成であったが、日本においては病院や地域

の出産前教室もあり、さらに複数回時間を夫婦で日程調整することは困難と考え、180分×2回の構成とし、参加しやすいよう工夫した。

(2) コペアレンティング促進プログラム実施による夫婦への効果

研究参加者は16組であったが、1組は双子であったため、除外した。研究参加者は、本プログラムを平均妊娠30.0±3.6週までに完了し、すべての夫婦が全2回のクラスを受講した。研究参加時の平均妊娠週数は26.3±5.6週であった。

妊娠期の本プログラムの介入によって、夫婦のコペアレンティングがどれだけ促進されたかを、CRS-J合計得点によって評価した。その結果を図3の散布図に示す。T1での夫の平均CRS-J合計得点は47.3±6.9点であり、妻では43.7±9.7点であった。

1か月時のコペアレンティングの評価について、夫婦別々に高効果/低効果の2群による比較を行なった結果、夫においては、CRS-Jの下位尺度である子どもの前でのもめ事得点が、低効果群で高効果群より有意に高くなっていった(p=.026)。一方、妻においては、低効果群のCRS-J合計得点(p=.007)および、下位尺度の育児による親密性(p=.033)と育児の合意(p=.003)の得点が高効果群より有意に低くなっていった。

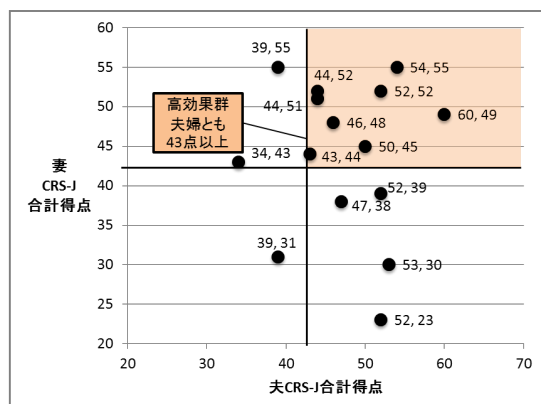


図3 夫婦のCRS-J合計得点の分布
X軸：夫のコペアレンティング関係尺度合計得点、Y軸：妻のコペアレンティング関係尺度合計得点
図中数字：(X, Y) = (夫, 妻)

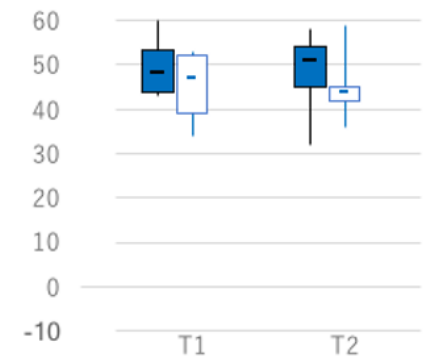


図4 コペアレンティング関係尺度合計得点の推移 (夫)
T1: 見出生後1か月、T2: 見出生後3か月
箱が塗りつぶされているもの：高効果群、箱が白抜きのもの：低効果群
箱中央の横線は中央値を表す

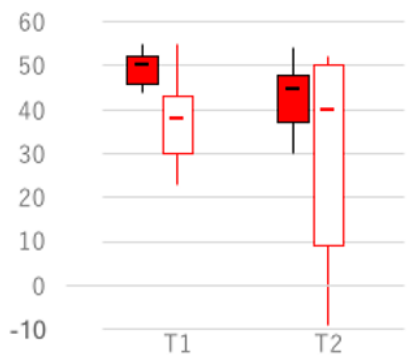


図5 コペアレンティング関係尺度合計得点の推移 (妻)
T1: 見出生後1か月、T2: 見出生後3か月
箱が塗りつぶされているもの：高効果群、箱が白抜きのもの：低効果群
箱中央の横線は中央値を表す

(3) 日本語版コペアレンティング関係尺度 Coparenting Relationship Scale Japanese ver.; CRS-J (Feinberg et al., 2012) の信頼性妥当性の再検討

本研究で使用した日本語版 CRS-J は 2016 年に武石らによって開発されたものだが、調査対象は 0 歳児を育てている両親であった。そのため、今回は対象を未就学児(0-6 歳)まで範囲をひろげ、男女各 600 名ずつのサンプルにて尺度の信頼性、妥当性を検討した。内的整合性は、男性で =.77、女性で =.83、全体で =.81 と信頼性が確保された。弁別的、収束妥当性では、Pearson の積率相関係数による、Multitrait Scaling 分析を行った。各項目と各項目が帰属すると想定される下位尺度との相関と、それ以外の下位尺度との相関を求め、尺度化成功率は 75-100%であった。基準関連妥当性は、夫婦ペアレンティング調整尺度(Coparental Regulation Inventory;CRI)(加藤ら,2014)、夫婦関係満足度尺度(Quality Marriage Index ; QMI)(Norton, 1983、諸井,1996)、育児セルフエフィカシー尺度(Parenting Self-efficacy Scale; PSE)(金岡,2011)、「家族する」尺度(大野,2016)との間で、r=.430-.712(p<.01)の有意な相関が認められた。

5 . 主な発表論文等

[雑誌論文](計1件)

武石 陽子, 中村 康香, 川尻 舞衣子, 跡上 富美, 吉沢 豊予子:日本語版コペアレンティング関係尺度(CRS-J)の信頼性・妥当性の検証, 日本母性看護学会誌, 17(1), 11-20, 2017(査読あり)

[学会発表](計6件)

Yoko TAKEISHI, Yasuka NAKAMURA, Maiko KAWAJIRI, Fumi ATOGAMI, Toyoko YOSHIKAWA: What Does Predict Coparenting at The First Month or Third Month?- Longitudinal Study from

Late Pregnancy -, The 22nd EAFONS, Singapore(Furama RiverFront Hotel), Singapore, 2019.1.17-18

Yoko TAKEISHI, Yasuka NAKAMURA, Maiko KAWAJIRI, Fumi ATOGAMI, Toyoko YOSHIZAWA :Evaluation of Preventing Postpartum Depression by Couple-Based Educational Intervention to Promote Co-Parenting Relationship: A Preliminary Trial ,The 21st EAFONS, Seoul(Lotte Hotel World), Korea, 2018.1.11-12

Yoko Takeishi, Yasuka Nakamura, Maiko Kawajiri, Fumi Atogami, Toyoko Yoshizawa : Effects of prenatal education to enhance the coparenting relationship of new parents from late pregnancy to the first month after birth: A non-randomized controlled trial. , 37th JANS, Sendai(Sendai International Center), 2017.12.16-17

Yasuka NAKAMURA, Yoko TAKEISHI, Fumi ATOGAMI, Toyoko YOSHIZAWA: The double income or single income of Japanese couples is directly associated with their coparenting relationships with their first child, 31st ICM Triennial Congress, Metro Toronto Convention Centre, Toronto, CANADA, 18-22 Jun, 2017

Yoko Takeishi, Yasuka Nakamura, Maiko Kawajiri, Fumi Atogami, Toyoko Yoshizawa: Reliability and validity of the Prenatal Comfort Scale-Short Form (PCS-S), ICN Congress 2017, Centre conventions international Barcelona, 27th May-1st Jun, 2017

武石陽子, 中村康香, 跡上富美, 吉沢豊予子:日本語版 Coparenting Relationship Scale の信頼性と妥当性の検証, 第 18 回日本母性看護学会学術集会, 福岡(石橋文化センター), 2016.6.18

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.womens.med.tohoku.ac.jp/research/coparenting/index.html>

6 . 研究組織

(1)研究協力者

研究協力者氏名：武石 陽子

ローマ字氏名： Takeishi Yoko

研究協力者氏名：吉沢 豊予子

ローマ字氏名： Yoshizawa Toyoko

研究協力者氏名：跡上 富美

ローマ字氏名： Atogami Fumi

研究協力者氏名：伊藤 直子

ローマ字氏名： Ito Naoko

研究協力者氏名：川尻 舞衣子

ローマ字氏名： Kawajiri Maiko

研究協力者氏名：加藤 道代

ローマ字氏名： Kato Michiyo

研究協力者氏名：佐藤 奈保

ローマ字氏名： Sato Naho

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。